

伊賀市立城東中学校いじめ防止基本方針

1 いじめの防止等に対する基本的な考え方

(いじめの定義)

「いじめ」とは、生徒等に対して、当該生徒等が在籍する学校に在籍している等当該生徒等と一定の人間関係にある他の生徒等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった生徒等が心身の苦痛を感じているものをいう。

(いじめ防止等に関する基本理念・学校としてのいじめ問題についての考え方)

「いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがある。」また、「いじめは、どの学校、どの学級でも起こりうるものであり、どの生徒も被害者にも加害者にもなりうる。」という基本認識を本校全教職員が持ち、生徒の尊厳が守られ、生徒をいじめに向かわせないための未然防止や早期発見等のための対策を行う。

2 学校におけるいじめの防止等の対策のための組織

(1) 城東中学校いじめ防止対策委員会

いじめ防止等の措置を実効的に機能できるよう、管理職、生徒指導担当（主任）、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、いじめ問題相談員、県・市から派遣されるスクールカウンセラー、および学校評議員・PTA役員による「いじめ防止対策委員会」を設置する。

(開催時期) 月1回（学校の実態に応じて）

(機能) いじめ問題に関わる年間計画を作成する。

いじめ防止に関する取組の検証を行う。

いじめ事案に対する対応の検討を行う。 等

3 学校におけるいじめの防止等の対策のための具体的な取組

(1) いじめの防止

ア マニフェスト、学校経営方針から

みんなにとって居心地のよい学校づくりをおこなう。

イ 人権・同和教育の取組、仲間づくりの取組

一人ひとりの人権を大切にし、自尊感情をはぐくむ。

ぼかぼか言葉を増やす取組みを行う。

ウ 社会性やコミュニケーション能力の育成

地域のいろいろな人をゲストティーチャーとして招き、人と人とのつながりの大切さや人権の大切さを学ぶ。

エ 自尊感情・自己有用感・自己肯定感の育成

互いの良さに気付く取り組みを行い自尊感情を高める。

オ 生徒会の取組

全校集会や学年集会を行い、自らつながり合える仲間づくりに取り組む。

カ いじめ問題に関する教職員の資質向上

いじめ防止等のための対策に関する本校における教職員の資質能力の向上に必要な研修を実施する。

キ 保護者・地域・いじめ問題相談員との連携

生徒アンケートやQ U調査をもとに学期ごとに子どもの実態について協議する場を持つ。

等

(2) いじめの早期発見

ア いじめについてのアンケート調査の実施

- ① 生徒対象 年3回（7月、12月、2月）
- ② 保護者対象 年1回（10月）

イ 教育相談の実施

- ・生徒及び保護者がいじめに関わる相談を行うことができるよう、次のとおり相談体制の整備を行う。
 - ① 担任等による日常的な教育相談
 - ② スクールカウンセラーの活用
 - ③ いじめ問題相談員の活用
 - ④ ふれあい教室・市青少年センター等、相談窓口の活用

ウ 日常的な生活ノート・日記帳、家庭訪問

エ 教職員の情報共有体制

- ・月1回全教職員で問題傾向を有する生徒について、現状や指導について情報交換、及び共通認識を図る。

オ インターネット等を介して行われるいじめの対策

インターネット等を通じて行われるいじめの防止、また、生徒及び保護者が対処できるように、外部講師を招聘する等、情報モラルに係る研修会を実施する。

(3) いじめに対する措置

ア いじめ問題にかかわる生徒の安全確保

いじめを発見・通報・相談を受けた場合には、特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応する。被害生徒を守り通すとともに、教育的配慮の下、毅然とした態度で加害生徒を指導する。また、いじめを知らせてきた生徒の安全も確保する。状況によっては、スクールカウンセラー等を生徒にあてる。

イ 教職員の情報共有体制（職員会議、校内研修）、組織対応体制の確立

いじめの発見・通報・相談のあった場合、城東中学校いじめ防止対策委員会)において情報を共有する。その後、速やかに関係生徒から事情を聴き取るなど

をして、いじめの有無の確認を行う。さらに、いじめの根本的な解決に向けた方策を構築し、取り組む体制をつくる。

ウ 保護者への連絡と支援・助言

いじめが確認された場合は、保護者に事実関係を伝え、いじめの受けた生徒とその保護者に対する支援や、いじめを行った生徒の保護者に対する助言を行う。また、いじめ事案に関する事実関係その他の必要な情報を適切に提供する。

エ 関係機関・専門機関と連携

いじめを確認した状況について、校長が伊賀市教育委員会に報告する。いじめ事案の状況により、関係機関・専門機関との連携を図る。

4 重大事態への対処

(1) 重大事態に対する調査

いじめにより、生徒の生命・心身または財産に重大な被害が生じた疑いや相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき、緊急のいじめ防止対策委員会を開くとともに教育委員会の指導・助言の下、事実関係を明確にするための調査を実施する。(生徒や保護者からいじめにより重大事態に至ったという申し出があった場合も含む)

また、法に抵触すると考えられる場合は、伊賀警察署に通報し、対応等の相談を行う。

(2) 調査結果の提供及び報告

調査結果については、教育委員会に報告するとともに、いじめを受けた生徒及びその保護者に対し、事実関係その他の必要な情報を適切に提供する。